

令和6年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	児童生徒指導 部 会		
2 研究所員 事務所員 ◆：代表者	研究所員 ◆黒子 孝佳（栃木第三小） ・南端 文栄（東陽中）	・古川 則子（南小） ・上岡 惇一（都賀中）	事務所員 ・海老沼 宏明 ・椿 拓也 ・沖 尚将



3 研究テーマ

” 関わり ” を広げ、深めるための実践と教師の役割

4 研究の取組

（1）研究内容

- ・研究初年度から” 関わり ” をキーワードに研究を行い、今年度で3年目を迎える。
- ・外部機関との連携に不安を抱く教員がいることや、校内の連携体制に悩みをもつ教員がいる実態を踏まえ、教員同士、教員と児童生徒、教員とSC、SSW、外部機関（医療機関等）の” 関わり ” について研究していく。
- ・特に、児童生徒指導事案の中には、児童生徒の家庭環境や発達の課題等を把握することが困難な場合が多く、児童生徒理解を深める上で、SCやSSWとの連携が解決への糸口へつなぐと考える。
- ・校内体制の構築に向けた取組の提案として、「アセスメントシート」の活用を提示する。
- ・上記に示された内容の事例を収集し、分析、協議を行い、良い点や改善点を示していく。

（2）研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月13日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月22日	研究テーマ・内容の協議
7月4日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	1月24日	栃木市教育研究発表会 （オンデマンド配信）
10月8日	研究テーマ・内容の協議	2月6日	協議・まとめ
		2月21日	3年次報告提出

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・研究を通して、支援の「関わり」を広げることができた。SC、SSWの存在は大きく、幅広いニーズに対応することができた。さらに、SCやSSWに任せっきりになるのではなく、教員とSC、SSWとが「関わり」を深めていくことで、子どもや保護者に寄り添った支援ができることを実感した。
- ・県教育委員会の資料を参考に「アセスメントシート」や「プランニングシート」、「ケース会議の運用の仕方」などの基本的な事項を改めて見直すことで、有用性に気づき、効果的な活用について市内小中学校に紹介することができた。各校で、ぜひ活用して欲しいと考える。

【課題】

- ・教員が、SC、SSW、外部機関について正しい認識、知識をもつこと。
- ・アセスメントシートを作成すればよいのではなく、校内でどのように活用するのかを決め、アセスメントシートの必要性を教員一人ひとりが理解した上で、作成、協議、引継ぎが連続して行われること。

6 さらに研究していきたいこと

- 学校になかなか足が向かない児童生徒の理解や具体的な支援、対応について
- 様々な要因から学校生活に不適應を起こす児童生徒の理解や具体的な支援、対応について
- 栃木市教育支援センター（5か所）と学校との連携について